

生徒の主体性を育む 体力向上の取組

～カリキュラム・マネジメントを活かした教育活動を通して～

尾道市立向東中学校

全児童生徒数	215名 (男子 110名 女子 105名)
全クラス数	8クラス (特別支援学級 2クラス)
TEL	0848-44-3016

1 課題と目的

生徒の体力・運動能力は、全国的に近年向上の傾向が見られるものの、昭和60年頃と比較すると依然低い水準となっている。特に運動する子供（運動が好き）とそうでない子供（運動が嫌い）の二極化の傾向が見られるが、本校でも同様である。

保健体育科の授業はもちろん、学校教育活動全体を通して、運動に対する関心・意欲を高めることで二極化を少しでも改善する取組を組織的に行っている。

2 主な取組の内容

①学びの意欲を高める授業づくり

ア仲間とともに『できた』が実感できる授業づくり

ICT機器等を活用することで、互いの技能を観察し、どのようなアドバイスをすれば仲間が上達するかを考え、教え合い・学び合う活動を多く仕組んでいる。仲間からの賞賛や励ましは、学習意欲の向上につながっている。

イ導入の工夫と振り返り活動の充実

保健体育科の授業では、学習意欲を高めるために、単元の導入段階で学習カードを活用し、到達目標をイメージさせている。また、振り返りの時間を確保することにより、授業内容の定着と次の授業への意欲付け、目標設定を図っている。

②集団づくりを基盤とした特別活動の充実

ア生徒主体で安心・安全な温かみのある体育大会

本校は縦割集団で体育大会を実施している。そのため、異年齢で活動する時間を意図的に多く設定するとともに、リーダーは限られた練習時間を有効活用するために、リーダー会を実施し、リーダー長を中心に練習計画・練習形態を決定している。

教職員主導でなく、生徒が主体となり運営することで、主体性や連帯感が育まれるとともに、やる気が高まり、仲間を応援する場面も多く見られるなど、運動が苦手な生徒も安心して積極的に取り組むことができる行事となっている。

③運動の日常化・実践化から体力向上

ア駅伝部の発足

毎年駅伝部を発足し、全身持久力を高めるための取組を行っている。運動が得意、不得意に関係なく、多くの生徒が意欲的に参加し、懸命に練習に励んでいる。その背景には、「場の設定」がある。練習では、走力別で練習メニューが異なるグループ設定を行い、どのグループに所属するかは、生徒自らが決定する。

このことにより、自己のペースで体力向上を図ることができるとともに、各運動部の競技力向上へもつながっている。

3 取組で工夫したところ

生徒の実態を把握する取組として、各種アンケート調査の実施を定期的に行うとともに、結果の分析を行い、様々な取組に活かすよう工夫した。また、リーダー会やグループ活動等を通じて、生徒が自ら考え、決定し、実行できる環境を意図的に作り出すことで、主体的に行動する生徒の育成につながった。

4 成果と今後の課題

体力向上への取組を通して、多くの部分で波及効果を得ることができている。生徒指導上の諸課題・欠席日数の減少、部活動の各種大会における成績の向上など、学校生活全体の高まりにつながっている。

今後の課題としては、運動面だけでなく、家庭や地域と連動した健康教育の更なる充実がある。特に、低年齢のときから基本的な生活習慣、食事、外遊びなどの重要性を理解させる必要がある。そのためにも、コミュニティ・スクールの強みを最大限活かした小中連携、そして地域連携を更に深めていく必要がある。



学びの意欲を高める授業づくり
保健体育科の取組



集団づくりを基盤とした特別活動の充実
生徒主体の体育大会



運動の日常化・実践化から競技力向上
駅伝部の発足